

第3学年 美術科学習指導案

3年2組 男子20名 女子20名 計40名

指導者 萩原 至道

【授業】9:50~10:40 会場 学習室(4階)

【協議会】10:50~11:40 会場 学習室(4階)

1 題材名 時代や社会と美術 —「沖縄戦の図」は語る—

(学習指導要領に関する内容) 第2学年及び第3学年

B鑑賞 (1) ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

〔共通事項〕(1) ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

2 題材について

(1) 題材設定の趣旨

鑑賞は単に知識や定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくり出す学習である。そこで、本題材では対話による鑑賞活動をする。対話による鑑賞活動は、作品から気付いたことや感じ取ったことを基に鑑賞者同士のコミュニケーションを通して、作品を読み解いていく活動である。作品に対する思いや考えを述べ合い、互いの意見を尊重しながら、見方や感じ方を広げていくことを期待したい。

本題材では、丸木位里・丸木俊の「沖縄戦の図」を鑑賞していく。この作品は国内最大の地上戦である沖縄戦を民間人の目線で描かれた絵画作品である。戦後40年近く経った1984年に制作された作品で、丸木位里・俊夫妻が沖縄戦を体験された人々や研究者などから証言を得て描き上げた。400cm×850cmという大きな画面の中には、互いに縄で首を締め合ったり、鎌で首を切ったりして集団自決する人々の姿や沖縄の海が米軍艦隊で埋め尽くされる様子、血で染まる青い海、火炎放射器から放たれる真っ赤な炎、そこから逃げようとする人々、山になるほどたくさんの骸骨、正面に眼差しを向ける子供など、様々な場面や状況が写実的に描き出されている。このように様々な場面や状況が描かれているからこそ、作品をよく見ていくことで、様々な気付きがあり、作品の内容についていろいろな捉え方ができると考える。そこから、様々な解釈や連想を広げることとなり、さらに生徒の作品の見方や感じ方が広がると考える。

本校の第3学年では、10月に沖縄へ修学旅行が予定されている。戦後71年が経ち、戦争を知る方々も少なくなっている現在、生徒たちにとって戦争とはどのようなものか想像もつかないのかもしれない。沖縄戦とはどのようなものだったのか、この作品の鑑賞を通して考える機会とすることで、修学旅行での学びも深まるのではないかと考える。

(2) 生徒の実態

第1学年ではアンドリュー・ワイエスの「クリスティーナの世界」やジャコモ・マンゾーの「椅子と果物」などの鑑賞活動に取り組み、形や色彩、材料などに視点を置いて作品のよさや美しさ、作者の心情や意図などを感じ取り、自分なりの思いや考えをもって作品を見ることができた。第2学年では定朝の「阿弥陀如来坐像」を鑑賞し、作品のよさや美しさ、作者の心情や意図のみならず、その時代の人々の考えや願いについても造形的な要素を視点にして見方を深めていった。第3学年では、前題材でパブロ・ピカソの「ゲルニカ」を鑑賞し、形や色彩などを視点にするとともに、制作の過程や制作の背景などの情報も活用して作品を見ていった。本題材では、さらに深まりのある鑑賞活動にしていくために、描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの作品の特徴を視点に内容を整理することで、生徒自らの考えをまとめさせ、教師が生徒の思考の質を見とることにも

つなげていく。

6月に本学級で行ったアンケート調査では、「美術の学習が好きですか」という問いに対して、「好き」・「どちらかといえば好き」と答えた生徒は79%であった。また、「美術の学習で、鑑賞は好きですか」という問いに対して、「好き」・「どちらかといえば好き」と答えた生徒は46%であった。「好き」と答えた生徒の理由としては、「自分の考えをもって見られるから」、「他の人の考えを聞けるから」などであった。「嫌い」と答えた生徒の理由としては、「見るだけはつまらない」「面倒くさい」などであった。本題材では、生徒自らが対象を積極的に見る姿勢を養うために、以下の指導の構えをもって授業に当たりたい。

(3) 指導の構え

① 実物大の「沖縄戦の図」の図版の提示

本題材では実物大の「沖縄戦の図」の図版を生徒に提示する。実物と同じ大きさの図版は、生徒に対して驚きや感動を与えるものとなり、生徒が関心をもって作品を見ることにつながる。また、その大きさから、作品の中に実際に入って見ることも可能であり、作品の中に描かれる様々な場面や状況をその場に行き行って見ることを促し、主体的に鑑賞活動に取り組ませたい。

② 作品を見る視点を明確にしたワークシート

ワークシートには、描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの項目を設け、それぞれの視点で作品の内容を整理してまとめさせることで、作品に対する見方を深め、生徒自身の価値意識をもって鑑賞させたい。

③ 考えを深まりに気付くメモのルール

生徒がワークシートに考えを記入する際には、自分の考えを黒色、話し合いで他の人の考えを聞いて納得のいったものは青色、自分の考えを修正するときには赤色といったルールを示すことで、生徒自身が自分の考えの変容を確認できるようになり、自分の見方や考え方、感じ方を広げていくことにつながる。

④ 問いの工夫

生徒の発言に対して、「そこからどう感じるのか」や「どうしてそう感じるのか」など適切に問いかけることで、生徒の思いや考えの根拠を確かめ、より論理的・体系的な考えを引き出すとともに、生徒の見方の深まりや、見方や考え方、感じ方の広がりにもつなげていきたい。

⑤ 作者の情報の提示

鑑賞活動の途中に作者の丸木位里・丸木俊の情報を生徒に提示する。丸木位里は広島県生まれ、丸木俊は北海道生まれである。1941年に2人は結婚し東京で暮らしていた。1945年8月、広島と長崎に米軍によって原爆投下された。数日後、位里、俊は位里の両親が住む広島へ行き、惨状を目撃することとなる。これが丸木位里、俊の「原爆の図」を描くきっかけとなった。一このような情報を提示することで、作品の特徴や印象に加え、新たな視点で作品をより広く深く鑑賞することにつながる。と考える。

3 教科の本質に迫る授業づくり

発想や構想、鑑賞活動など感性を働かせて思考・判断していく場面において、〔共通事項〕の視点から問いかけを行うことで、自分の見方や考え方、感じ方を広げていくことにつながる。

本題材では、「沖縄戦の図」の鑑賞を通して、生徒が作品から見つけたことや感じたこと、考えたことに対して、「そこからどう感じるのか」や「どうしてそう感じるのか」など問いかけることで、思考・判断の根拠である〔共通事項〕を自覚し、自分の見方や考え方、感じ方を広げていくことにつながる。

4 題材の目標

- 描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じとろうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ◎描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象などから、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えを述べるなどして自分の価値意識を生み出しながら味わっている。 【鑑賞の能力】

5 全体計画（全2時間）

次	学習活動	評価規準〔共通事項〕	配時
前題材での学習	○「ゲルニカ」を鑑賞する ・作品の特徴や印象を手がかりに、「ゲルニカ」が私たちに何を語っているのか探る。		
1	○「沖縄戦の図」を鑑賞する ・作品の特徴や印象を手がかりに、「沖縄戦の図」が私たちに何を語っているのか探る。 ○「沖縄戦の図」の批評文を書く ・探ったことを基に「沖縄戦の図」の解説文を書き、意見交流する。	・描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】 (鑑賞の様子) ・描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象などから、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えを述べるなどして自分の価値意識を生み出しながら味わっている。 【鑑賞の能力】 (観察・発言内容・ワークシート)	2 (本時1/2)

6 本時の学習（2／3時間）

(1) 指導目標

「沖縄戦の図」の鑑賞を通して、描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象などから、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって作品を味わうことができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価〔共通事項〕
1 「沖縄戦の図」に出会い、第一印象を述べ合う。 ・暗い絵だ。 ・なんか怖い。 ・人々が不気味だ。	・実物大の作品を提示し、その大きさや作品のもつ雰囲気をつかえさせる。 ・気付いたことや感じたことを自由に発表させ、話しやすい雰囲気を作る。
2 作品をよく見て、見つけたことや感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。	・ワークシートに記入する際には、自分の考えを黒、他の人の考えで納得のいくものは青、自分の考えを修正するときには赤といったル

- ・右上に白い風車が10本ほどまとまって描かれている。
- ・右下に骸骨がたくさんあって怖い。
- ・右側は炎に巻かれているように見える。
- ・真ん中辺りに青い顔をした子供がいるが、無表情なのもあって不気味。
- ・左上に縄で首を絞め合う女性が見える。なぜ、こんなことをするのだろう。
- ・左下の青いところに目を閉じた人々が見える。みんな死んでいるのかも。
- ・青色で塗られたところの上の方が赤く塗られ、海が血で染まった感じ。

3 作品から見つけたことや感じたこと、考えたことをグループで話す。

4 作品から見つけたことや感じたこと、考えたことを全体で話し合う。

- ・右下の骸骨が薄い黒で塗り重ねられているので亡くなった人の恨みを感じた。だから怖いのだと思う。
- ・右側に見える炎が真っ赤ですごく熱そう。その横を逃げていく人々は苦しいだろうから、表情が険しいのだと思う。
- ・真ん中より下に見える女の子たちは無表情で立っている。その一人は顔が青くて、きっと恐怖のために感情を失ってしまったのでは。

5 作品や作者の丸木位里・丸木俊について知る。

6 作品の特徴や印象を手がかりに作品が私たちに語っていることは何なのか全体で話し合う。

- ・互いに殺し合う人々や炎の中で逃げ惑う人々などから戦争の不毛さ。
- ・どの人も白目で描かれていて、表情も無く描かれているので、戦争は人の心を奪うということ。
- ・人々の表情、黒く滲んだ情景、逃げたり、殺しあったりする場面から戦争の

ールを示しておき、自分の考えの変容を確認できるようにする。

- ・ワークシートを用いて、描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象を視点に作品を分析させる。
- ・実際に絵の中に入って作品を鑑賞してもよいことを伝え、いろいろな立場から作品を捉えさせる。

描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じとろうとしている。

【美術への関心・意欲・態度】(鑑賞の様子)

- ・各グループに「沖縄戦の図」の縮小版を配布し、作品に描かれているものを確認しながら話させるようにする。

・生徒の発言を肯定的に受け入れ、主体的な発表を促す。

- ・生徒の発言に対して、「そこからどう感じるのか」や「どうしてそう感じるのか」など問いかけることで、生徒の思いや考えの根拠を確かめていく。

- ・生徒の発言は描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象ごとに、意図的にまとめながら板書し、後で振り返られるようにする。

- ・沖縄戦(国内最大の地上戦)を描いた作品であること、作者の丸木位里・俊のプロフィールなどを提示する。

- ・ワークシートに記入したことや板書されている内容から作品が私たちに語っていることや作者の思い、意図を考えさせる。

描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象などから、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えを述べるなどして自分の価値意識を生み出しながら味わっている。

【鑑賞の能力】(発言内容・ワークシート)

<p>悲惨さが伝わってくる。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・次回は本時の学習で話し合ったことを基に作品の解説文を書くことを伝える。</p>
---	---

7 授業観察の視点

- ・ 実物大の「沖縄戦の図」を用いたことは、生徒が作品に関心をもち、主体的に鑑賞活動をする上で効果的であったか。
- ・ 描かれているものや形、構図、色彩、描き方などの特徴や印象を視点に作品を分析していったことは、生徒の作品に対する見方を深め、自分の価値意識をもって鑑賞していくための手立てとなったか。

〔主な参考文献〕

- 「丸木位里・丸木俊 共同制作 沖縄戦の図」2006 佐喜眞美術館
- 「原爆の図」2000 丸木位里／丸木俊
- 「アートで平和をつくる 沖縄・佐喜眞美術館の軌跡」2014 佐喜眞道夫
- 「美術教育概論（改訂版）」2009 大橋功他編著
- 「みる 考える 話す 聴く」2013 京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター他編著